

県営土地改良事業 さいたま中央地区  
事業計画書（変更）  
（区画整理）

埼 玉 県

# 目

第1章 目 的 .....	1
第2章 地域及び地積 .....	1
第1節 地 域 .....	1
第2節 地 積 .....	1
第3章 現 況 .....	2
第1節 気 象 .....	2
1 一般気象 .....	2
2 特殊気象 .....	3
第2節 土地状況 .....	4
1 地形、土壌及び侵食の程度 .....	4
2 土地分類 .....	4
3 土地利用の状況 .....	5
4 土地所有の状況 .....	5
第3節 水利状況 .....	6
1 用水状況 .....	6
2 排水状況 .....	10
第4節 道路概況 .....	13
1 道路概況 .....	13
2 主要道路一覧表 .....	14
第5節 地域農業の概況 .....	16
1 産業別就業人口 .....	16
2 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼業別農家数 .....	17
3 動力農機具及び主要家畜頭数 .....	18
4 主要作物作付状況 .....	19
5 農業の動向 .....	20
第6節 地域環境の概況 .....	21
1 環境に関する地区の状況 .....	21
2 環境に関する基本的な考え方 .....	21
3 自然環境及び社会環境 .....	21
第4章 一般計画 .....	22
第1節 事業計画の要旨 .....	22

# 次

2 事業別面積 .....	22
第2節 営農計画及び土地利用計画 .....	23
1 営農計画の概要 .....	23
2 土地利用区分 .....	23
3 作付体系 .....	24
4 生産計画 .....	26
5 労働改善計画 .....	27
第3節 用水計画 .....	28
1 計画基準年 .....	28
2 計画かんがい方式 .....	28
3 計画用水系統 .....	28
4 計画用水量 .....	30
5 水源計画 .....	31
第4節 排水計画 .....	33
1 計画基準雨量 .....	33
2 計画排水方式 .....	33
3 計画排水系統 .....	33
4 計画排水量 .....	35
5 排水対策 .....	35
第5節 道路計画 .....	37
1 道 路 .....	37
2 路線配置図 .....	37
第6節 農用地造成計画 .....	39
第7節 洪水調節計画 .....	39
第8節 干拓計画 .....	39
第9節 農用地整備計画 .....	39
1 区画整理 .....	39
2 暗渠排水 .....	40
第5章 主要工事計画 .....	42
第1節 用水施設 .....	42
1 貯水池 .....	42
2 頭首工 .....	42

1 要 旨 ..... 22

3 揚水機 ..... 42

4	用水路	42	3	農用地集団化の方針	49
第2節	排水施設	43	第4節	土地の評価及び清算の方法	50
1	排水水門	43	1	評価の方法	50
2	排水機	43	2	清算の方法	50
3	排水路	43	第5節	換地計画樹立の年度計画	50
第3節	道路	44	第6節	換地処分 of 時期に関する特則	50
1	道路	44	第10章	事業費の総額及び内訳	51
第4節	農用地造成	44	第11章	効用	52
第5節	洪水調節施設	44	第12章	関連する事業	52
第6節	干拓施設	44	第13章	現況・計画図面	52
第7節	農用地整備施設	45			
1	区画整理	45			
2	暗渠排水	45			
3	客土	45			
第6章	附帯工事計画	45			
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	45			
第8章	環境との調和への配慮	46			
第1節	環境配慮する地域の状況	46			
1	広域的な環境特性	46			
2	地域の状況	46			
第2節	環境配慮目標及び基本的な考え方	46			
第3節	環境配慮の整備内容	46			
1	魚、小動物などの避難経路、場所を確保する整備	46			
2	環境に配慮した工法	46			
第9章	換地計画の概要	47			
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	47			
第2節	換地区の設定	47			
1	換地区の名称、所在、面積	47			
2	換地区を設定する理由	47			
第3節	換地計画樹立の基本方針	47			
1	従前の土地の面積の基準	47			
2	用途別予定地積	48			

## 第1章 目的（変更なし）

本地区は、さいたま市東部の、見沼区、緑区、岩槻区に跨り、一級河川綾瀬川の右岸に広がる水田を中心とする地区面積約139haの低平地で、標高は概ねTP+3.80～6.00m、地形勾配1/1000程度の地域である。

地区内の農地は、昭和29年から昭和34年にかけて10a区画に整備されているが、ほ場は小区画で分散している。

用水は、「見沼代用水東縁用水路」「同天久保用水路」「一級河川綾瀬川」の3系統から供給しており、取水は比較的安定している。

また排水は、平成7年度から20年度にかけ県営湛水防除事業により水路と排水機場が整備された「平沼排水路」と、「普通河川伝右川」、「一級河川綾瀬川直排区域」の3系統に分類される。

しかし、末端の用排水路は老朽化や不等沈下などの影響により、用水が十分に配水されない区域や排水不良区域が発生するなど、土地利用条件や利便性が悪く、生産性は低水準となっている。このため、本地区の作付は、水稲単作となっている。

また、道路の状況は、地区の西側を県道さいたま鳩ヶ谷線、北側を市道21753号線、東側を市道3487号線などに囲まれ、地区内のほとんどの路線はアスファルト舗装で整備されているものの舗装の劣化が進んでおり、耕作用道路は、幅員が3.00m以下のため農業用機械のすれ違いが困難な状況である。

については、都市近郊農地である本地区の立地条件を活かし、引き続き地域の農業を振興するため、土地改良事業（区画整理）を実施する。区画の大型化、道路の整備、用排水路の整備等を行うとともに、農地の集積・集約による経営規模の拡大や農地の効率的利用を促進し、担い手の確保・育成や生産性の向上を図り、農業経営の安定を目指すものである。

## 第2章 地域及び地積（変更なし）

### 第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
区画整理	埼玉県さいたま市 見沼区大字膝子、緑区大字上野田、岩槻区大字横根・大字笹久保新田

### 第2節 地積

(第2表)

市町村名	現況地目						合計(ha)	備考
	水田(ha)	畑(ha)	樹園地(ha)	荒地・不耕作地(ha)	道水路等(ha)			
さいたま市	112.9	12.2	-	-	13.4	138.5		

### 第3章 現 況

#### 第1節 気 象 (変更なし)

##### 1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	東京气象台	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	平成9年～平成30年	5月～9月	10月～4月		
平均気温 (°C)		24.1°C	11.5°C	17.8°C	
降水量	平均 (mm)	847.1mm	755.8mm	1602.9mm	
	基準年 (mm)	509.4mm	630.8mm	1140.2mm	用水基準年 昭和39年 (埼玉合口二期事業の基準年)
降水日数	平均 (日)	57日	58日	115日	
	基準年 (日)	49日	64日	113日	用水基準年 昭和39年 (埼玉合口二期事業の基準年)
根 雪 期 間		—	～	—	
無 霜 期 間		—	～	—	
最 多 風 向		S 南	NNW 北北西	—	最多風向発生時期 (5月～9月) 最大風速発生年月日 (平成30年10月1日)

2 特殊気象

過去93年間（昭和元年～平成30年）データによる。

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	東京气象台	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	
観測期間	昭和元年～平成30年															
最大日雨量 (mm/day)	371.9	S.33.9.26	1/290	278.3	S13.6.29	1/50	259.5	H8.9.22	1/35	234.5	H5.8.27	1/21	225.5	S41.6.28	1/18	
最大時間雨量 (mm/hr)	88.7	S14.7.31	1/55	82.5	H12.7.4	1/35	78.1	S35.9.1	1/26	77.0	S56.7.22	1/24	76.0	S33.9.26	1/22	
最大4時間雨量 (mm/4hr)	180.5	S33.9.26	1/102	165.0	H5.8.27	1/60	147.0	S14.7.31	1/32	141.3	S6.9.27	1/26	139.0	S56.10.22	1/24	
最大3日連続雨量 (mm)	427.0	S13.6.28 ～6.30	1/222	407.0	S33.9.24 ～9.26	1/155	296.2	S20.10.3 ～10.5	1/21	294.0	H5.8.25～ 8.27	1/20	282.5	H16.10.7 ～10.9	1/16	
最大連続旱天日数 (日)	71	S48.11.10 ～ S49.1.20	1/206	53	S44.12.7 ～ S45.1.29	1/42	52	H15.12.31 ～ H16.2.21	1/38	51	S48.11.10 ～12.31	1/35	47	H10.12.7 ～ H11.1.23	1/24	年間雨量 雨量5mm未満 も観測

第2節 土地状況 (変更なし)

1 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

地目	田						畑・その他								受益地標高 (m)		備考	
	1/1000以下	1/1000~1/100	1/100~1/20	1/20~1/11.5	1/11.5以上	計	3°以下	3°~8°	8°~15°			15°~20°	20°以上	計	最高	最低		
面積 (ha)	112.9	-	-	-	-	112.9	12.2	-	-	-	-	-	-	-	12.2	6.0 m	3.8 m	
比率 (%)	100	-	-	-	-	100	100	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表											面積 (ha)	備考
	土壌断面								堆積様式	母材			
	色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土性						泥炭層 グライ層		
細粒質普通灰色低地土 (F3Z1T1)	灰色	あり	なし	あり	1種 SiL	2種 SiL	3種 SiL	4種 (泥炭)	45cm以下泥炭層グライ層あり	水積		非固結水成岩	125.1
計												125.1	

2 土地分類  
該当なし

3 土地利用の状況

(第4表-2)

土地利用別 市町村別	耕 地						山 林		採 草 放牧地 (ha)	原 野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶 園 (ha)	その他 の樹園 地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
さいたま市	112.9	12.2	—	—	—	—	—	—	0.2	13.2	138.5		

4 土地所有の状況

(令和 2年 2月現在)(第4表-3)

所有別 区 分	個人有 (農地)	個人有 (その他)	市有 (道水路)	国有	県有	計	備 考
面 積 (ha)	125.1	0.3	13.1	—	—	138.5	
受益者数 (人)	379	—	—	—	—	379	
筆 数 (筆)	1,827	3	539	—	—	2,369	
権 利 関 係	所有権 耕作権	所有権	土地改良法 第5条6項用地	—	—	—	
備 考 (関係戸数)	380	2	1	—	—	383	

### 第3節 水利状況 (変更なし)

#### 1 用水状況

地区の用水は、地区の西側を流れている「東縁用水路（見沼代用水）」及び地区の東側を流れている「一級河川綾瀬川」を水源としている。

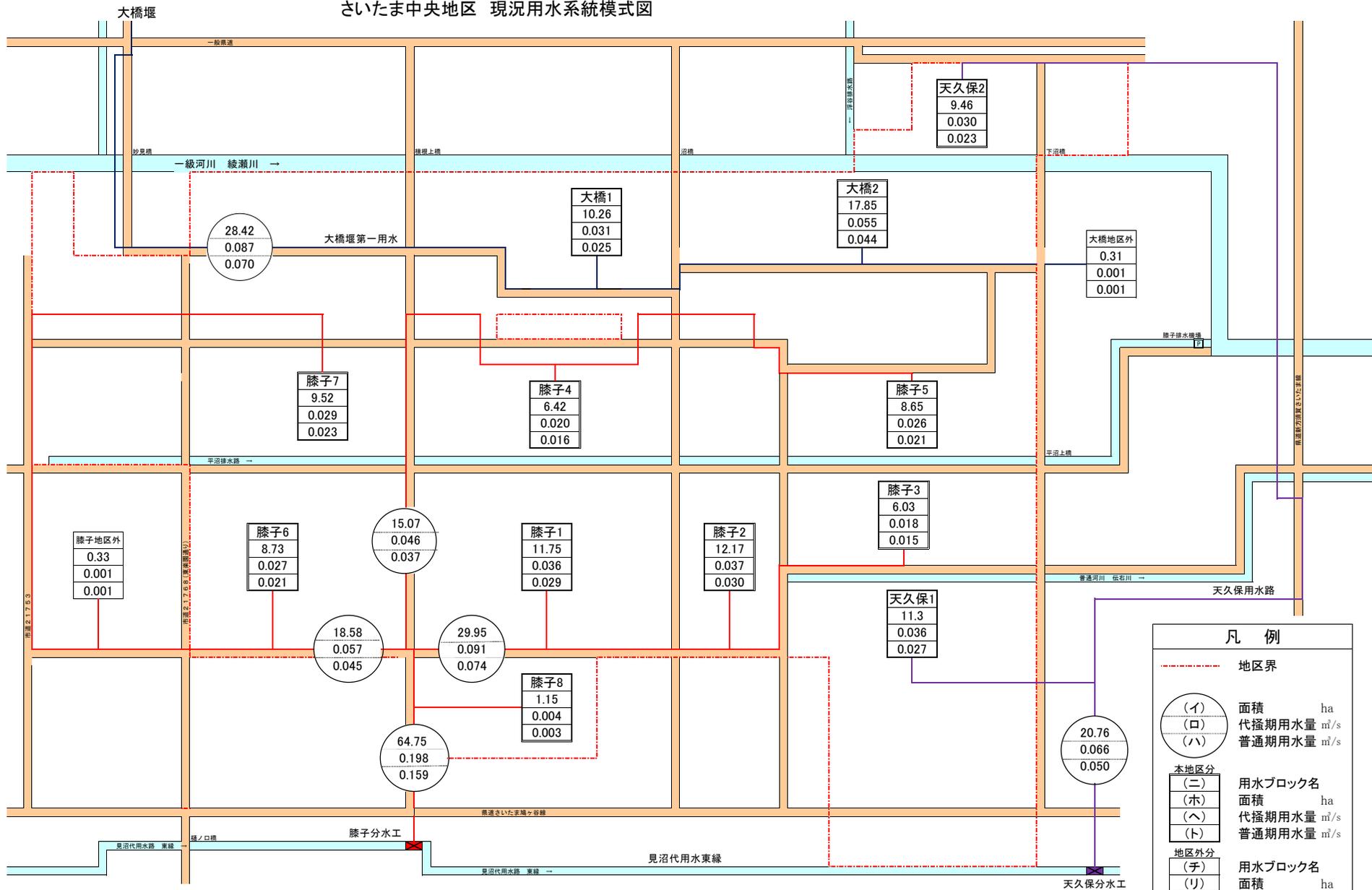
用水系統は、3系統からなり「東縁用水路（見沼代用水）」を水源とする「膝子分土工」、「天久保用水」の2系統及び綾瀬川の「大橋堰」を水源とする「大橋堰第一用水」により用水を供給しており、取水は比較的安定している。

地区内の用水は、一部を除き排水路は分離されているが、用水路の不等沈下によりかんかんがい期間中は道路面まで冠水する部分もあり、末端のほ場まで用水が行き届かず、排水路を利用してかんがいしている状況である。

#### (1) 用水系統

次頁の現況用水系統図参照。

さいたま中央地区 現況用水系統模式図



単位用水量ℓ/s/ha/s/ha

膝子、大橋堰	天久保分水工
3.064	3.181
2.451	2.417

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

施設名	項目		かんがい面積				計		水利権		慣行水利権		延べ 取水量	備考
			500ha 以上		500未満～100ha		100ha 未満							
	個所	ha	個所	ha	個所	ha	個所	ha	個所	m <sup>3</sup> /s	個所	m <sup>3</sup> /s	m <sup>3</sup> /s	
貯水池	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
井 堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自然取水口	-	-	-	-	3	113.9	3	113.9	2	0.260	1	0.091	0.351	
揚水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	3	113.9	3	113.9	2	0.260	1	0.091	0.351	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

項目 施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備考
貯水池	—	—	—	—	—	—	
井堰	—	—	—	—	—	—	
自然取水口	—	—	—	—	—	—	
揚水機	—	—	—	—	—	—	
用水路	用水路施設	112.9	U形水路 土水路	L=10.1km	S. 29～34	用水の適正配分と 効率的な利用	開水路で整備
その他	—	—	—	—	—	—	
計	1	112.9	—	—	—	—	

## 2 排水状況

本地区の排水系統は大きく3系統に分類され、一級河川綾瀬川に直接排水する区域、県営湛水防除事業で整備された平沼排水路に落ち、膝子排水機場を経て一級河川綾瀬川に排水される区域、市管理の伝右川に排水される区域となっている。

排水状況については、一級河川綾瀬川の河川改修が未了のため、膝子排水機場の本格稼働が制限されていることなどから台風等の大雨時には地区内の大部分で湛水を生じている状況である。

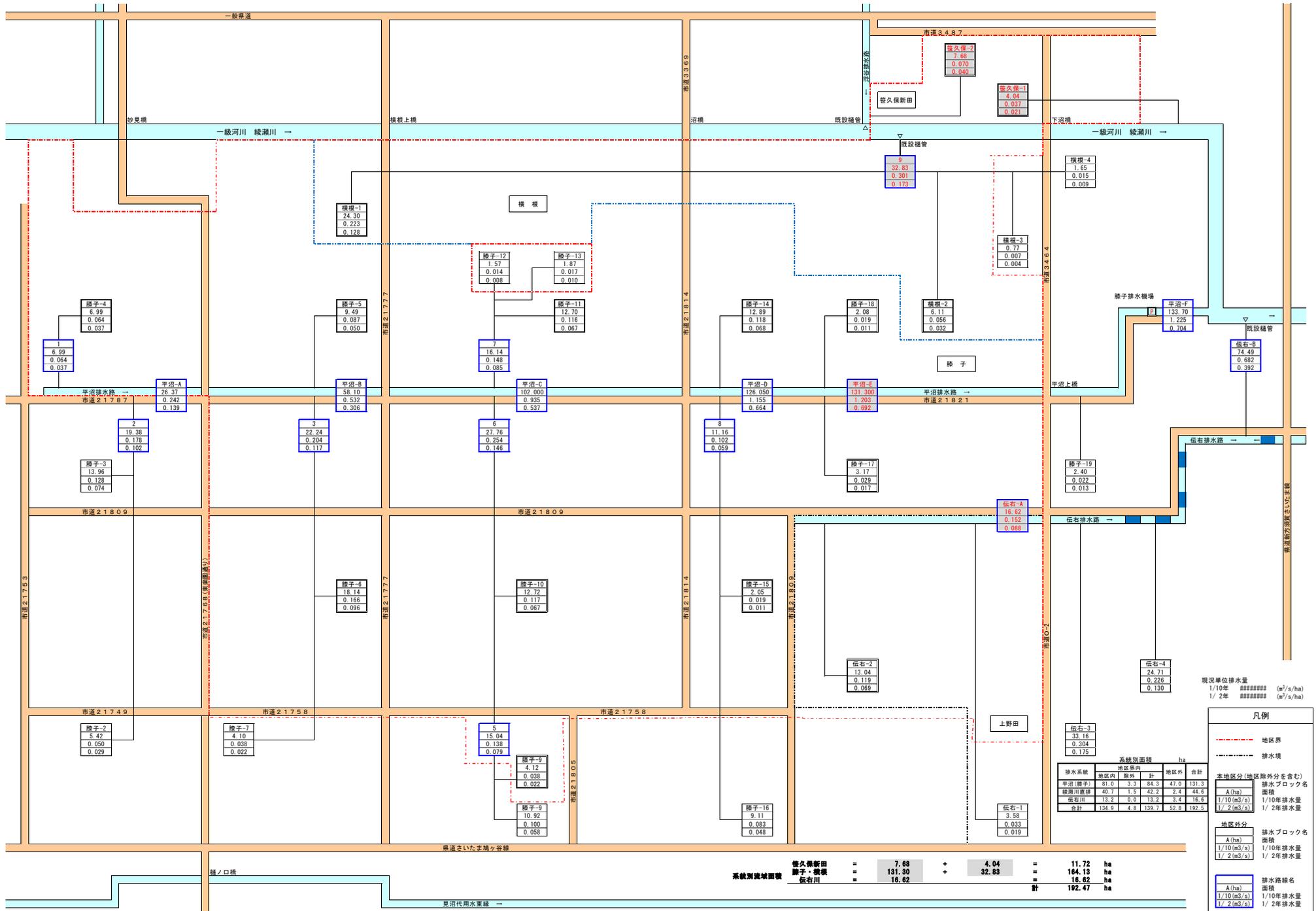
また、伝右川の排水断面も不足しており、湛水を生じている状況である。

地区内の末端排水路は、護岸整備路線と土水路路線が混在している。

### (1) 排水系統

次頁の現況排水系統図参照。

# 現況排水系統 模式図



現況単位排水量  
 1/10年 ##### (m³/s/ha)  
 1/2年 ##### (m³/s/ha)

系統別面積		ha	
排水系統	地区界内	地区外	合計
平沼(藤子)	81.8	3.3	85.3
伝右(伝右)	40.7	1.5	42.2
伝右(伝右)	13.2	0.0	13.2
合計	134.9	4.8	139.7

地区区分		排水ブロック名	
地区区分	面積	排水ブロック名	面積
本地区分(地区除外分を含む)	A(ha)	排水ブロック名	面積
1/10(m³/s)		1/10年排水量	
1/2(m³/s)		1/2年排水量	

地区区分		排水路種名	
地区区分	面積	排水路種名	面積
1/10(m³/s)		1/10年排水量	
1/2(m³/s)		1/2年排水量	

盤久保新田	=	7.68	+	4.04	=	11.72	ha
藤子・横根	=	131.30	+	32.83	=	164.13	ha
伝右川	=	16.62			=	16.62	ha
合計					=	192.47	ha

## (2) 排水施設

## (ア) 排水方法一覧表

(第5表-3)

項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m <sup>3</sup> /s)		現況排水能力 (m <sup>3</sup> /s)		備考
		500ha 以上		500未満～100ha		100ha 未満								
		個所	ha	個所	ha	個所	ha	個所	ha					
自然	排水路	—	—	1	131.3	4	61.2	5	192.5	—	—	—	1.677	
	水門	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
機械	排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計		—	—	1	131.3	4	61.2	5	192.5	—	—	—	1.677	

## (イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-4)

項目 施設名		施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設又は更新年	改修を必要とする理由	備考
自然	排水路	—	125.1	土水路及びコンクリート柵渠	L= 18.1km	不明	排水能力不足による排水不良	
	水門	—	—	—	—	—	—	
機械	排水機	—	—	—	—	—	—	
	水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	
	排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	
計		—	125.1	—	L= 18.1km	—	—	

#### 第4節 道路概況 (変更なし)

##### 1 道路概況

本地区は、西側を県道さいたま鳩ヶ谷線、北側を市道21753号線、南側を0-2号線、東側を市道3487号線及び一級河川綾瀬川に囲まれた地域である。

見沼区膝子地区は、そのほとんどの路線においてアスファルト舗装で整備されている。住宅地においては4 m以上の道路幅員が確保されているが、耕作用道路は幅員が3 m以下であり、農業用機械のすれ違いが困難な状況で、アスファルト舗装の劣化が進んでいる。

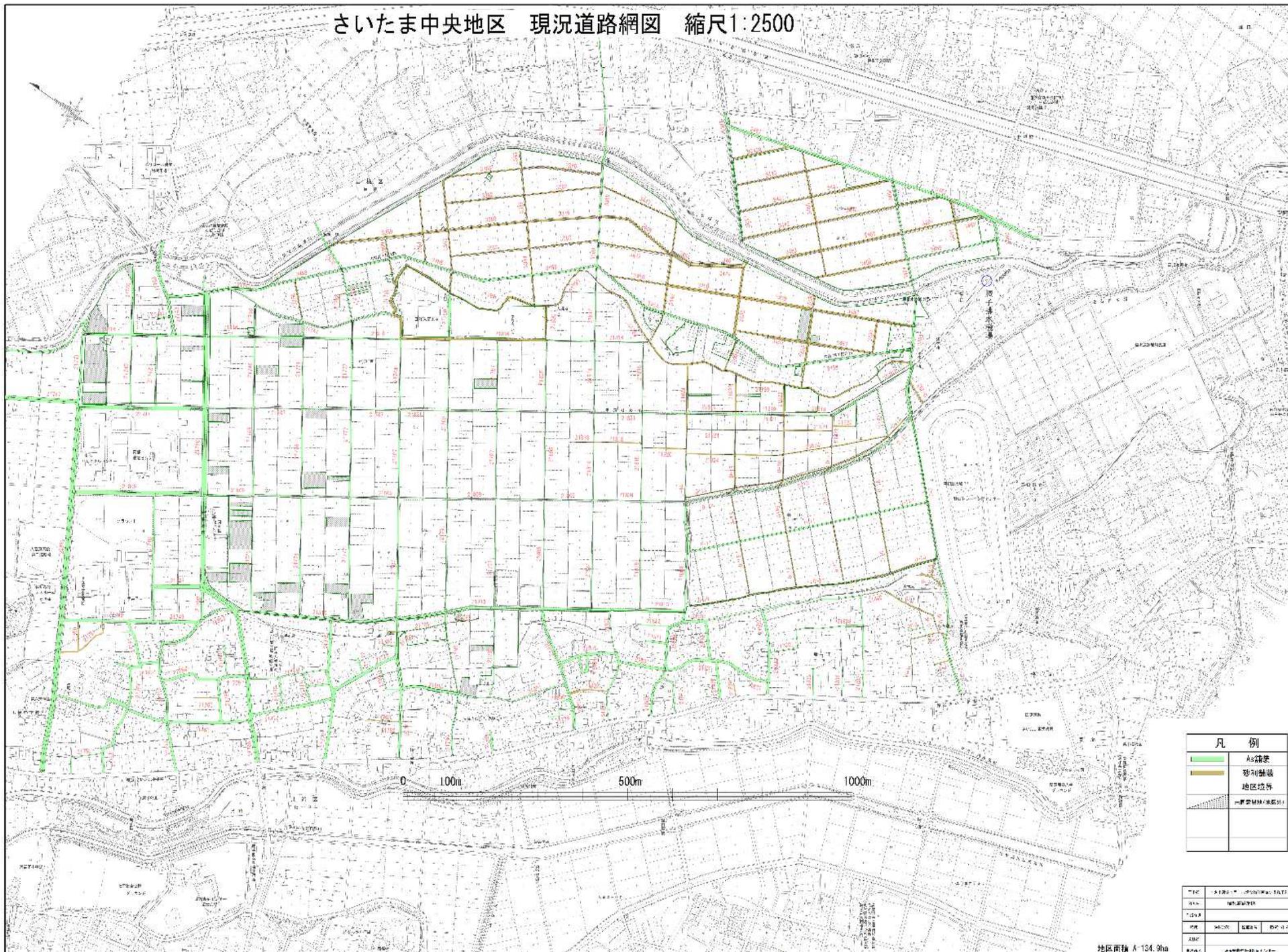
緑区上野田地区は、住宅地内は舗装されているが、幅員は4 m以下の道路が多く、耕作用道路は幅員が3 m以下で未舗装なため農作業に支障を来している。

2 主要道路一覧表

(第6表)

No	路線名	管理区分別	延長 (m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			
1	市道0-2~0-18号	さいたま市	2,678	3.0	2.0~2.5	アスファルト舗装	否	現況利用
2		さいたま市	471	3.0	2.0~2.5	砂利舗装	否	現況利用
3	市道21024~21826号	さいたま市	6,400	3.0	2.0~2.5	アスファルト舗装	要	
4	市道3357~3465号	さいたま市	6,772	3.0	2.0~2.5	砂利舗装	要	
5		さいたま市	2,516	3.0	2.0~2.5	アスファルト舗装	否	廃止
6		さいたま市	9,908	3.0	2.0~2.5	砂利舗装	否	廃止
小計			28,745					

さいたま中央地区 現況道路網図 縮尺1:2500



凡例	
	As級線装
	砂利舗装
	地区境界
	一帯遊歩林(仮区画)

作成	国土院 国土院 国土院 国土院
訂正	国土院 国土院
調査	国土院 国土院
印刷	国土院 国土院
発行	国土院 国土院
配布	国土院 国土院

地区南端 A-134.9ha

第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項目	総数	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気ガス 熱供給 水道業 (人)	運 輸 通信業 (人)	卸 売 小売業 飲食店 (人)	金融 保険業 (人)	不動 産業 (人)	サービ ス業 (人)	公 務 (人)	その他 (人)	備 考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
さいたま市	(587,220)	(4,118)	—	(11)	(97)	(38,478)	(70,128)	(2,647)	(62,828)	(93,767)	(24,038)	(18,159)	(202,924)	(20,645)	(49,380)	令和 2年
	593,727	4,098		18	81	39,167	65,505	2,559	69,983	98,399	23,617	19,927	229,103	22,191	19,079	令和 6年

上段() : 変更前 (令和 2年 埼玉県統計年鑑)

下段 : 変更後 令和 6年 埼玉県統計年鑑

2 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	農家 総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数(戸)											1戸当たり平均農用地面積(ha)					
		例外規定 の適用を 受けるも の	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0 ～ 10.0	10.0 ～ 20.0	20.0ha 以上	自給的 農家	田	畑	樹園 地	小計	草地	計
さいたま市	(2,104) 1,588	(26) 67	(403) 279	(785) 562	(429) 311	(233) 177	(152) 118	(51) 44	(20) 19	(4) 6	(1) 5	(1,624) 1,410	(0.61) 0.67	(0.48) 0.56	(0.04) 0.09	(1.13) 1.32	—	(1.13) 1.32

項目 市町村名	耕地の分散状況		専業農家数(戸)				自給的 農家	計	備 考
	1戸 当たり 団地数	団地当 たり面積 (ha)	専 業	兼 業		小計			
				第1種	第2種				
さいたま市	—	—	(757) —	(192) —	(1,155) —	(2,104) 1,588	(1,624) 1,410	(3,728) 2,998	専業農家数は 販売農家数

(2015年農林業センサス, 平成30年埼玉県統計年鑑)  
2020年農林業センサス, 令和6年埼玉県統計年鑑

上段(): 変更前  
下段 : 変更後

※令和7年6月現在、「2020年農林業センサス」から  
専業別統計調査は廃止

3 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

(2020年農林業センサス)

項目 市町村名	動力農機具					
	乗用型トラクター		動力田植機		コンバイン	
	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数
さいたま市	1,857 台	1,603 戸	999 台	970 戸	947 台	936 戸
100戸当数量 (台, 頭)	116		103		101	
利用戸数の割合 (%)	43		26		25	

項目 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		鶏		
	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数	
さいたま市	(118) 頭 ×	(4) 戸 4	(×) 頭 19	(5) 戸 3	(〃) 頭 ×	(1) 戸 1	(2,700) 羽 25	(7) 戸 4	×は統計数値を公表しないもの
100戸当数量 (台, 頭)	(2,950) -		(-) 633		(") -		(38,571) 625		
利用戸数の割合 (%)	0		0		0		0		

上段(): 変更前(2015センサス)  
下段(): 変更後 2020センサス

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名		さいたま市		作 付 率 (%)	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)		(2,414) 2,272			
区 分		作付面積 (ha)	単位面積当たり 収量(kg/10a)		
田	水稲	(1,151) 944	( ) 486	(47.7) 41.5	
	小 計	(1,151) 944	( ) -	(47.7) 41.5	
畑	小松菜	( ) 105	( ) 1,819	( ) 4.3	
	ブロッコリー	( ) 22	( ) 1,129	( ) 0.9	
	小 計	( ) 127	( ) -	( ) 5.2	
樹 園 地	栗	( ) 26	( ) 107	( ) 1.1	
	梨	( ) 19	( ) 2,170	( ) 0.8	
	小 計	( ) 45	( ) -	( ) 1.9	
合 計		(1,323) 1,116	( ) -	(54.8) 49.1	
市町村別延作付率 (%)				(87.8) 92.6	(2119ha/2414ha×100=87.8%) 2105ha/2272ha×100=92.6%

上段() : 変更前(2015センサス)

下段 : 変更後 2020センサス

5 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地域指定等	備 考
		B	A (現在)		B	A (現在)	作物名	B	A (現在)	家畜名	B	A (現在)	農機具名	B	A (現在)		
変化の 状 況 (Cを100と した指数)	総農家数	(85) 85	(72) 64	耕 地	(92) 88	(81) 79	水 稻	(95) 99	(94) 90	乳用牛	(127) 43	(54) -	耕耘機 トラクター	(90) 73	(74) -	農家Aの専 業・兼業、主 要作物Aの野 菜類、Bの果 樹類、大家畜 Aの乳用牛、 A、Bの肉用牛 と豚及び動力 農機具AとBの 防除機につい ては、記載さ れていないの で空白とし た。	
	専業農家数	(99) 101	(101) -	田	(94) 91	(85) 76	麦 類	(25) 100	(25) 600	肉用牛	(〃) -	(〃) -	動力田植機	(85) 77	(65) -		
	第1種 兼業農家数	(67) 54	(36) -	畑	(89) 86	(76) 76	野菜類	(92) 77	(71) -	豚	(〃) -	(〃) -	自脱コンバイン	(81) 76	(62) -		
	第2種 兼業農家数	(84) 84	(71) -	樹園地	(76) 87	(66) 170	果樹類	(100) -	(-) 57	鶏	(73) 26	(19) 25	防除機	(〃) -	(〃) -		
	農 業 従事者数	(74) 79	(59) 89	草 地	(23) 19	(19) 14	豆 類	(100) 92	(92) 33								
変化の 理 由	後継者の農業離れによる農 家戸数、農業従事者数が減少 しているが、専業農家数は変 化が少ない傾向にある。			市街化の進行による農 地転用の増加に伴い、耕 地面積は減少傾向にあ る。			耕地面積の減少に伴い 作付面積も減少傾向と なっている。			市街地化等の飼育環 境の変化により、減少 している。			農機具数は、農家戸 数・農業従事者数の減 少に伴い減少傾向にあ る。				

上段() : 変更前  
下段 : 変更後

(A:2015年, B:2010年, C:2005年 各農業センサス転記)  
A:2020年, B:2015年, C:2010年 各農業センサス転記

第6節 地域環境の概況（変更なし）

1 環境に関する地区の状況

本地区の属するさいたま市は、関東平野のほぼ中心となる埼玉県の南部に位置し、東京都心から約 20～40km 圏内にある。市域は東西、南北ともに約 20km、面積 21,749ha で首都圏において広い面積を有している。北西から南東へとわずかな勾配があるものの、おおむね平坦な地形である。

本地区は、一級河川綾瀬川低地と安行台地北端の一部からなり、整然とした水田と台地の斜面林が緑の景観を形成している。

2 環境に関する基本的な考え方

本地域は、さいたま市田園環境マスタープランにおいて環境配慮区域の綾瀬川低地膝子周辺地区にあり生産環境保存ゾーンに位置づけられている。

環境目標は、見沼たんぼ周辺地区に分類され、豊かな田園環境を基盤として、自然・文化が融合する交流型田園環境の創造を目指す地域となっている。

3 自然環境及び社会環境

(ア) 自然環境

項目	概要
気 候	太平洋側気候に属すが、若干の内陸性の気候も示している。冬は、北西の季節風が吹き、晴天が続く空気が乾燥する。雪は少ない。夏は、日中かなり高温になり、雷や降雹も多く、6～7月の梅雨や9月の台風により雨天の日が多くなる。
地 形	本地域は平坦な水田地帯で、標高は3.8～6.0m、勾配は1/1,000程度である。
地 質	水田地帯は沖積層の低湿地帯で、畑地帯は関東ローム層の洪積台地で構成されている。
水 環 境	本地域を代表する河川は一級河川綾瀬川であり本地区の排水放流先となっている。農業用水は見沼代用水東縁用水路と一級河川綾瀬川の大橋堰から供給され、主な水源は一級河川利根川の水であり、かんがい期は豊かな水辺空間と田園空間を形成している。
動 植 物	文献調査及び地元聞き取りにより確認された生物 モツゴ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、オイカワ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、メダカ
景 観	南北に整然とした水田を中心とする農地と台地の斜面林が一体となって田園空間を形成している。

(イ) 社会環境

項目	さいたま市		
観光資源	春おか広場（さいたま市農村広場） 緑のヘルシーロード（遊歩道）		
歴史・文化	膝子の一里塚、満蔵寺の板碑 円空仏		

(ウ) その他

項目	さいたま市		
景観の優れた地域	整然とした水田と台地の斜面林が 形成する景観		

## 第4章 一般計画

### 第1節 事業計画の要旨

#### 1 要 旨（変更なし）

本地区内のほ場は小区画で分散している。地区内のほとんどの路線はアスファルト舗装で整備されているものの、舗装の劣化が進んでおり、耕作用道路は幅員が3.0m以下のため農業用機械のすれ違いが困難な状況である。また、末端の用排水路は老朽化や不等沈下などの影響により、用水が十分に配水されない地域や排水不良区域が発生するなど土地利用条件や利便性が悪く、生産性は低水準となっている。

このようなことから、区画の大型化、道路の整備、用水路及び排水路の整備、暗渠排水の整備、客土を行い、農地の集積・集約による効率的利用の促進により、担い手の確保・育成や生産性の向上を図り、農業経営の安定を目指すものである。

#### 2 事業別面積

(第8表)

土地利用区分 事業目的	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	樹園地 (畑) (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
区画整理	(20.8)	(48.9)	(25.5)	—	(43.3)	(138.5)	図測
	19.3	49.3	25.7	—	44.2	138.5	
計	(20.8)	(48.9)	(25.5)	—	(43.3)	(138.5)	上段() : 変更前
	19.3	49.3	25.7	—	44.2	138.5	下段 : 変更後

## 第2節 営農計画及び土地利用計画

### 1 営農計画の概要（変更なし）

中型機械体系に基づく営農計画の実現に向け、区画規模の拡大、用排水路の整備、暗渠排水の整備、道路の整備などの農業生産基盤の整備を実施し、地域の中心となる担い手の確保・育成や農地の集積集約を進め、効率的かつ安定的な農業経営の体質強化を図る。

田(水田)は汎用化により、水稲単作からこまつな、ブロッコリー等野菜類の導入を行い、主穀(水稲)・野菜等の地域農業への確立を図る。また、水田からの転換により普通畑を拡大し、ブロッコリーなどの産地形成を図る。

### 2 土地利用区分

(第9表-1)

土地利用区分 区分	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	道水路 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
現況	(//)	—	(//)	—	—	(//)	(//)	(//)	(//)	図測
	112.9	—	12.2	—	—	125.1	13.1	0.3	138.5	上段(): 変更前 下段(): 変更後
計画	(20.8)	(48.9)	(25.5)	—	—	(95.2)	(19.9)	(23.4)	(138.5)	図測
	19.3	49.3	25.7	—	—	94.3	20.5	23.7	138.5	上段(): 変更前 下段(): 変更後



地目	時点	作付体系	面積 年 月 旬	1 年 目												2 年 目											
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
畑	現況	ねぎ	(#)		○	—	—	—	○△	—	△	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
			0.8		○	—	—	—	○△	—	△	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計画	ねぎ	(#)		○	—	—	—	○△	—	△	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
			3.5		○	—	—	—	○△	—	△	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		ブロッコリー	(20.5)									○	—	△	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—		
	20.6									○	—	△	—	—	×	—	×	—	—	—	—	—	—				
ごまつな	(2.8)	○	○	—	×	—	×	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	×	—	×	○	—	○	—			
	2.9																										
いちご	(#)																										
	0.6																										

4 生産計画

上段() : 変更前

下段 : 変更後

(第9表-3)

土地利用区分	項目	作物名(作型)	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左増減の内訳 (t)		備考
			現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積 収穫量増加	
田	表作	水稻	(〃)	(20.4)	(-59.3)	(〃)	(29.9)	(486)	(539)	(53)	(387.3)	(110.0)	(-277.3)	(-288.2)	(10.9)	
			79.7	18.9	-60.8	72.1	28.1	481	544	63	383.4	102.8	-280.6	-292.4	11.8	
輪 換 耕 地	表作	水稻	(〃)	(34.7)	(34.7)	(〃)	(50.8)	(486)	(539)	(53)	(〃)	(187.0)	(187.0)	(168.6)	(18.4)	
		こまつな	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(17.9)	(1,783)	(1,783)	(0)	(〃)	(217.5)	(217.5)	(217.5)	(0.0)	
		0.0	32.4	32.4	0.0	48.2	481	544	63	0.0	176.3	176.3	155.8	20.5		
		0.0	12.2	12.2	0.0	18.2	1,732	1,992	260	0.0	243.0	243.0	211.3	31.7		
		ブロッコリー	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(16.4)	(1,131)	(1,301)	(170)	(2.3)	(145.7)	(143.4)	(124.4)	(19.0)	
		0.2	11.2	11.0	0.2	16.7	1,247	1,434	187	2.5	160.6	158.1	137.2	20.9		
		ねぎ	(1.8)	(〃)	(-0.9)	(1.6)	(1.3)	(2,455)	(2,823)	(368)	(44.2)	(25.4)	(-18.8)	(-22.1)	(3.3)	
1.7	0.9	-0.8	1.5	1.3	2,366	2,721	355	40.2	24.5	-15.7	-18.9	3.2				
表作	くわい	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(4.7)	(848)	(848)	(0)	(16.1)	(27.1)	(11.0)	(11.0)	(0.0)		
1.9	3.2	1.3	1.7	4.8	864	994	130	16.4	31.8	15.4	11.2	4.2				
小 計			83.6	82.6	(-1.0)	(75.6)	(121.0)				(449.9)	(712.8)	(262.9)	(211.2)	(51.7)	
			83.5	78.8	-4.7	75.5	117.3				442.5	739.0	296.5	204.2	92.3	
普 通 畑	表作	こまつな	(〃)	(2.8)	(2.8)	(〃)	(4.1)	(1,783)	(1,783)	(0.0)	(0.0)	(49.9)	(49.9)	(49.9)	(0.0)	
		0.0	2.9	2.9	0.0	4.3	1,732	1,732	0.0	0.0	50.2	50.2	50.2	0.0		
		ブロッコリー	(〃)	(20.5)	(20.5)	(〃)	(30.0)	(1,131)	(1,131)	(0.0)	(0.0)	(231.9)	(231.9)	(231.9)	(0.0)	
		0.0	20.6	20.6	0.0	30.7	1,247	1,247	0.0	0.0	256.9	256.9	256.9	0.0		
		ねぎ	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(5.1)	(2,455)	(2,455)	(0.0)	(19.6)	(85.9)	(66.3)	(66.3)	(0.0)	
0.8	3.5	2.7	0.7	5.2	2,366	2,366	0.0	18.9	82.8	63.9	63.9	0.0				
表作	いちご	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(2,762)	(2,762)	(0.0)	(0.0)	(16.6)	(16.6)	(16.6)	(0.0)		
0.0	0.6	0.6	0.0	0.9	3,109	3,109	0.0	0.0	18.7	18.7	18.7	18.7	0.0			
小 計			(〃)	(27.4)	(26.6)	(〃)	(40.1)				(19.6)	(384.3)	(364.7)	(364.7)	(0.0)	
			0.8	27.6	26.8	0.7	41.1				18.9	408.6	389.7	389.7	0.0	
合 計			(84.4)	(110.0)	(25.6)	(76.3)	(161.1)				(469.5)	(1097.0)	(627.5)	(575.9)	(51.7)	
			84.3	106.4	22.1	76.2	158.4				461.4	1147.6	686.2	593.9	92.3	

※ 表記数値は、計算結果を表記上、四捨五入したものであり、表記数値による計算結果と異なる場合がある。

5 労働改善計画

(第9表-4)

項目 土地利用区分	作物名	作付面積(ha)	単位面積当り労働投下量 (hr/10a)				備考	
			区分	現況	計画	増減		
水田	水稲 (中型機械化)	(〃)	人力	(〃)	(14.0)	(△ 1.9)	担い手→担い手	
		7.2	機械力	15.9	13.4	△ 2.5		
	水稲 (中型機械化)	(30.6)	人力	(〃)	(14.4)	(△ 2.2)	一般→担い手	
		39.9	機械力	16.6	13.4	△ 3.2		
	水稲 (小型機械化)	(17.3)	人力	(〃)	(14.0)	(△ 6.0)	一般→担い手	
		4.2	機械力	20.0	13.4	△ 6.6		
				人力	(〃)	(15.9)	(△ 4.1)	一般→一般
				機械力	20.0	15.9	△ 4.1	
				人力	(〃)	(18.9)	(△ 3.7)	
				機械力	22.6	18.9	△ 3.7	
計		(55.1)						
		51.3						

上段( ) : 変更前

下段 : 変更後

### 第3節 用水計画

#### 1 計画基準年 昭和39年(変更なし)

かんがい期降雨量 : 509.4 mm/年

#### 2 計画かんがい方式(変更なし)

##### (1) かんがい期間

水 田 :

##### ① 膝子分水工

準早期Ⅱ 5月 6日～8月31日(代掻き期間) 5月 6日～5月15日) 作付比率 66 %

普通期Ⅰ 5月16日～9月10日(代掻き期間) 5月16日～5月25日) 作付比率 34 %

##### ② 天久保分水工

普通期Ⅱ 6月 1日～9月25日(代掻き期間) 6月 1日～6月10日) 作付比率 100 %

##### ③ 大橋堰

準早期Ⅱ 5月 6日～8月31日(代掻き期間) 5月 6日～5月15日) 作付比率 66 %

普通期Ⅰ 5月16日～9月10日(代掻き期間) 5月16日～5月25日) 作付比率 34 %

##### (2) かんがい方式

水 田 : 湛水かんがい

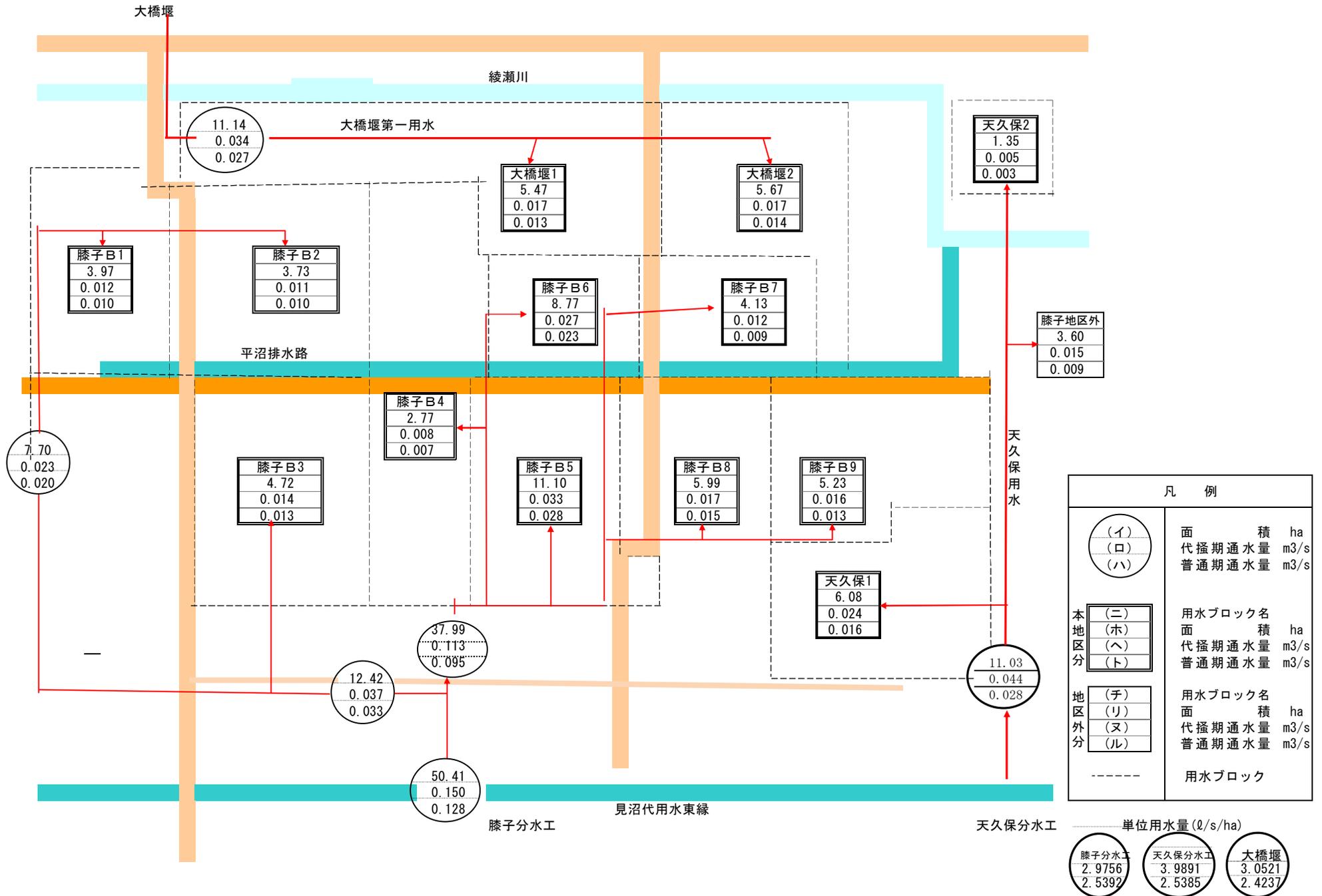
畑 : 畝間かんがい

#### 3 計画用水系統

次頁の計画用水系統図参照。



# さいたま中央地区 計画用水系統模式図(変更後)



4 計画用水量

(1) かんがい用水

変更前

(第10表-1)

項目 系統名	種 別	面積 (ha)	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他(水稲単作)		消 費 水 量 (m <sup>3</sup> /s)	損 失 率 (%)	粗 用 水 量		備 考	
			普通期	代掻き期	面 積 (ha)	一 日 当 り 計 画 平 均 か ん 水 深 (mm/日)	平 均 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	一 日 当 り 計 画 平 均 か ん 水 深 (mm/日)	平 均 断 日 数 (mm)	面 積 (ha)	(普通期) 計画平均 単位用水 量 (mm/日)	面 積 (ha)			平 均	最 大		
			計 画 平 均 単 位 用 水 量 (mm/日)	計 画 代 掻 き 単 位 用 水 量 (mm)															
			(m <sup>3</sup> /s)	(m <sup>3</sup> /s)															
膝子 分土工	農 業 用 水	51.5	21.6 (22.2)	162.8	27.4	5.3	5	10.1				17.5 (18.0)	14.0	0.113 (0.136)	田15% 畑40%	0.13	0.154	( )内は最大値	
天久保 用水	農 業 用 水	7.5	21.6 (22.2)	162.8	4.7	5.3	5	1.3				17.5 (18.0)	1.5	0.014 (0.021)	田15% 畑40%	0.018	0.023		
大橋堰 第一 用水	農 業 用 水	11.8	21.6 (22.2)	162.8	0.8	5.3	5	0.4				17.5 (18.0)	10.6	0.026 (0.032)	田15% 畑40%	0.029	0.036		
計		70.8			32.9			11.8					26.1	0.153 (0.189)			0.177	0.213	

変更後

膝子 分土工	農 業 用 水	50.4	21.6 (22.2)	162.8	31.9	5.3	5	10.6				17.5 (18.0)	7.9	0.108 (0.127)	田15% 畑40%	0.127	0.150	( )内は最大値	
天久保 用水	農 業 用 水	11.0	21.6 (22.2)	162.8	4.6	5.3	5	1.5				17.5 (18.0)	4.9	0.024 (0.037)	田15% 畑40%	0.018	0.030		
大橋堰 第一 用水	農 業 用 水	11.1	21.6 (22.2)	162.8	1.1	5.3	5	0.4				17.5 (18.0)	9.6	0.023 (0.029)	田15% 畑40%	0.026	0.034		
計		72.5			37.6			12.5					22.4	0.155 (0.193)			0.171	0.214	

5 水源計画

(1) 水利用計画

上段(): 変更前

下段(): 変更後

(第10表-2)

項目 区分	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能量		不足量		水源依存量		水源工種	備考	
	a	b	c=a-b	d=c/(1-α)	水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足水 量	水源名			水量
	(千m <sup>3</sup> )	(千m <sup>3</sup> )	(千m <sup>3</sup> )	(千m <sup>3</sup> )		e (千m <sup>3</sup> )	f (千m <sup>3</sup> )	g=c-f (千m <sup>3</sup> )	h=d-e (千m <sup>3</sup> )				(千m <sup>3</sup> )
農業用水	(1081) 1147	0	(1081) 1147	(1081) 1147	膝子 分水工	1612	1370	-	-	膝子 分水工	(1306) 1401	直接 分水工	損失率: α 現況・計画 水田: 15% 畑かん: 40%
農業用水	(160) 161	0	(160) 161	(160) 161	天久保 用水	517	439	-	-	天久保用水	(164) 196	直接 分水工	
農業用水	(247) 240	0	(247) 240	(247) 240	大橋堰 第一用水	708	602	(-) -	(-) -	大橋堰 第一用水	(292) 284	直接 分水工	
計	(1488) 1548	0	(1488) 1548	(1488) 1548		2837	2411	(-) -	(-) -		(1762) 1880		

※ 現況利用可能量は、現況用水量算定値から総水量を算定

(2) 用水対策 (変更なし)

(ア) 貯水池

該当なし

(イ) 井堰及び自然取水口

該当なし

(ウ) 揚水機

該当なし

## (エ) 用水路

上段() : 変更前

下段 : 変更後

(第10表-3)

項目 名称	かんがい面積 (ha)	最大通水量 ( $m^3/s$ )	延長 (km)	構造	備考
用水路	( 〃 ) 70.8	(0.211) 0.275	(14.1) 14.5	ベンチフリューム BF-300~900	(内0.7km既設利用含む) 内0.4km既設利用含む
計	( 〃 ) 70.8	-	(14.1) 14.5		

#### 第4節 排水計画

##### 1 計画基準雨量 (変更なし)

東京気象台(昭和元年～平成30年)気象データを岩井法により確率計算する。

	1/10年確率	1/2年確率
最大日雨量 :	197.9 mm/day	113.8 mm/day
最大4時間雨量 :	114.5 mm/4hr	68.8 mm/4hr
最大1時間雨量 :	64.8 mm/hr	39.6 mm/hr

##### 2 計画排水方式 (変更なし)

開渠(鉄筋コンクリート柵渠)による自然排水

##### 3 計画排水系統

次頁の計画排水系統図参照。





4 計画排水量

上段() : 変更前

下段 : 変更後 (第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)	流域面積 (km <sup>2</sup> )		基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位排水量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		基底排水量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		全排水量 (m <sup>3</sup> /s)			単位排水量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		備考
		山地	平地		山地	平地	山地	平地	山地	平地		山地	平地	
										自然排水	機械排水			
膝子排水系統	(70.7) 71.8	—	(1.32) 1.34	114.5	—	5.181	—	0.00	—	(4.135) 4.190	—	—	5.181	平沼排水路
綾瀬川直接排水	(13.5) 11.5		(0.21) 0.19	114.5	—	1.212	—	0.00	—	(0.229) 0.160	—	—	1.212	
伝右川排水系統	( // ) 11.0		( // ) 0.17	114.5	—	5.181	—	0.00	—	(0.541) 0.529	—	—	5.181	
計	(84.2) 94.3	—	( // ) 1.70		—		—		—	(4.905) 4.879	—	—		調節池、河川 0.23km <sup>2</sup> を除く

5 排水対策

(1) 排水水門 (変更なし)

該当なし

(2) 排水機 (変更なし)

該当なし

(3) 排水路

上段() : 変更前

下段 : 変更後

(第11表-2)

項目 名称	流域面積 (km <sup>2</sup> )	受益面積 (ha)	計画排水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長 (km)	構造	排水本川			備考
						名称	計画洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	計画洪水位 (m <sup>3</sup> /s)	
支線排水路	0.15~0.44	(95.2) 94.3	0.91以下	(0.8) 0.7	コンクリート 柵 渠	一級河川 綾瀬川	70	TP 5.11	( ) 横根調節池地点暫定値 B800~2000×H600
小排水路	0.01~0.15		0.55以下	(8.7) 10.1	コンクリート 柵 渠				( ) B500~1200×H500~600 U450
既設利用	0.00~0.01		0.04以下	(1.1) 1.2	コンクリート 柵 渠				( ) B500~1000×H500~900
計	—	(95.2) 94.3	—	(10.6) 12.0					

第5節 道路計画

1 道路及び索道

上段() : 変更前

下段 : 変更後 (第12表-1)

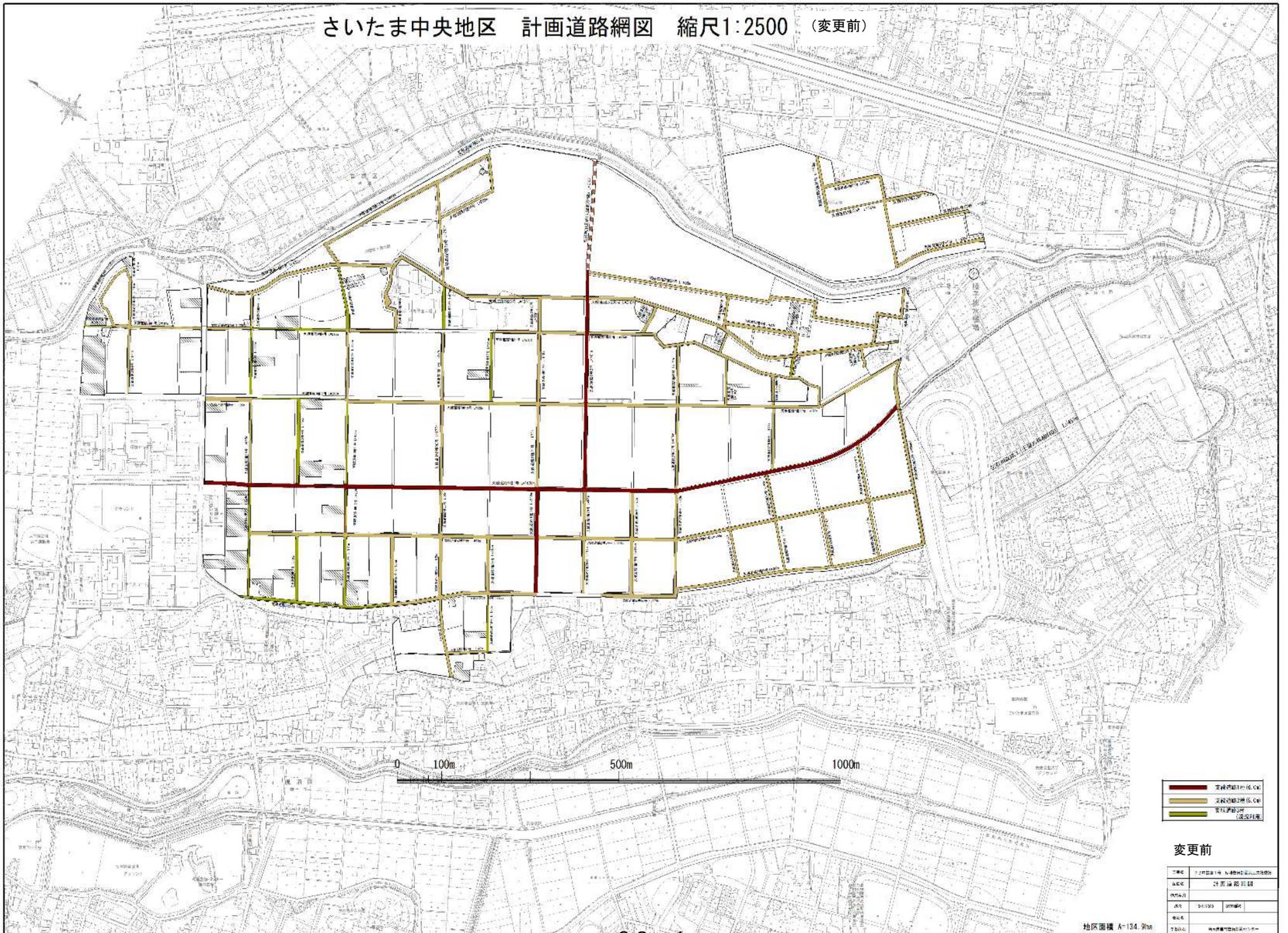
(1) 道路

路線名	項目 幅(有効)×延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
支線道路1種	6.0 (5.0) × (〃) 2.5	砂利舗装10cm	県道さいたま鳩ヶ谷線、市道21768号線(東楽園通) 市道イワ115号線に接続	
支線道路2種	5.0 (4.0) × (17.1) 17.2	砂利舗装10cm		
支線道路3種	3.0 (2.5) × (0.2) 0.1	砂利舗装10cm		現道利用
計	(〃) 19.8			

2 路線配置図

次頁の計画道路網図参照。

さいたま中央地区 計画道路網図 縮尺1:2500 (変更前)



- 完成時期1996年、2000年計画道路
- 完成時期2001年、2005年計画道路
- 完成時期2006年以降計画道路

変更前

図名	さいたま中央地区計画道路網図
作成年月	2011/03
作成者	国土交通省国土院
更新日	2011/03

地区面積 A-134.9ha



第6節 農用地造成計画（変更なし）  
該当なし

第7節 洪水調節計画（変更なし）  
該当なし

第8節 干拓計画（変更なし）  
該当なし

第9節 農用地整備計画

1 区画整理

(1) 区画の形状

上段()：変更前  
下段：変更後

(第13表-1)

長辺 × 短辺 (m)		区画面積 (a)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差	備考
田	100m×30m	30	(65.6) 65.9	(68.9) 69.9	0.1	
	端区	20	(4.1) 2.7	(4.3) 2.9	0.1	
	計		(69.7) 68.6	(73.2) 72.7		
	畑					
畑	100m×30m	30	(20.0) 17.3	(21.0) 18.4		
	50m×60m	30	(2.9) 3.6	(3.0) 3.8		
	端区	20	(2.6) 4.8	(2.7) 5.1		
	計		(25.5) 25.7	(26.7) 27.3		
合計		—	(95.2) 94.3	(100.0) 100.0		

(2) 表土扱い

上段(): 変更前

下段 : 変更後 (第13表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深(cm)	土量(m <sup>3</sup> )	備考
(37.8) 32.9	( // ) 耕作土確保のため	( // ) 15	(56,700) 49,350	

2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

上段(): 変更前

下段 : 変更後 (第13表-3)

項目 区分	面積 (ha)	土 壤 統 (区) 名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 (ℓ/s/ha)	計画後の地下水位 (m)	集水渠出口以下の排水方式	備考
	輪換田	(48.9) 49.3	細粒質普通灰色低地土 (F3 z 1T1)	40	4.63	0.50	自然排水
水 田	(20.8) 19.3	細粒質普通灰色低地土 (F3 z 1T1)	40	4.63	0.50	自然排水	
計	(69.7) 68.6						



## 第5章 主要工事計画

### 第1節 用水施設

1 貯水池 (変更なし)

該当なし

2 頭首工 (変更なし)

該当なし

3 揚水機 (変更なし)

該当なし

4 用水路

上段(): 変更前

下段(): 変更後 (第14表)

項目 水路名	かんがい面積 (ha)	通水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
			開渠	トンネル その他	計				
支線用水路	(70.8) 72.5	0.016 ~0.225	(13.0) 13.7	( 〃 ) 0.4	(13.0) 14.1	ベンチリューム BF-300~900	1/1000	—	
計	(70.8) 72.5		(13.0) 13.7	( 〃 ) 0.4	(13.0) 14.1				

第2節 排水施設

1 排水水門 (変更なし)

該当なし

2 排水機 (変更なし)

該当なし

3 排水路

上段() : 変更前

下段 : 変更後 (第15表)

項目 水路名	流域面積 (ha)	排水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長 (Km)			構造	勾配	主要構造物	備考
			開渠	トンネル その他	計				
支線排水路	15.1ha～ 44.3ha	0.91以下	(0.7) 0.6	( // ) 0.1	(0.8) 0.7	コンクリート柵渠 B1000×H600～ H2000×H600	1/1000	—	伝右川系統の勾配は1/4000
小排水路	1.0ha～ 15.0ha	0.55以下	(8.4) 9.8	( // ) 0.3	(8.7) 10.1	コンクリート柵渠 B500×H500～B1200×H600 U450～600	1/1000	—	伝右川系統の勾配は1/4000 U字溝は1/1000
計			(9.1) 10.4	( // ) 0.4	(9.5) 10.8				

第3節 道路

1 道 路

(1) 道路の総括表

上段() : 変更前

下段 : 変更後 (第16表)

項目 路線名	路線名	幅(有効)(m)×延長(Km)	構造	付帯構造物			最急こう配 (%)	同左の延長 (m)	最小 曲線半径 (m)	備考
				名称	構造	数量				
支線道路	支線道路1種	6.0 (5.0) × $\frac{(\quad)}{2.5}$	砂利舗装	-	-	-	-	-	-	
	支線道路2種	5.0 (4.0) × $\frac{(17.1)}{17.2}$	砂利舗装	-	-	-	-	-	-	
	支線道路3種	3.0 (2.5) × $\frac{(0.2)}{0.1}$	砂利舗装	-	-	-	-	-	-	既設利用
計		(17.3) 19.8								

第4節 農用地造成 (変更なし)

該当なし

第5節 洪水調節施設 (変更なし)

該当なし

第6節 干拓施設 (変更なし)

該当なし

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

(1) 区画整理

上段(): 変更前  
下段(): 変更後 (第17表-1)

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画 (m)	土量 (m <sup>3</sup> )	面積 (ha)	土量 (m <sup>3</sup> )	
さいたま中央	(95.2)	100×30	-	(37.8)	56,700	土量 37.8×10,000×0.15
	94.3			32.9	49,350	

2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

上段(): 変更前  
下段(): 変更後 (第17表-2)

項目 区分	面積 (ha)	集水渠				吸水渠						集水渠出口以下の排水施設			備考
		勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔	延長 (m/ha)	名称	構造	数量 (m/ha)	
全区	(69.7) 68.6	1/500	ポリエチレン管	φ100	80m 106m	1/500	ポリエチレン管	φ60	0.7	10m	960m 998m	-	-	-	

3 客土

(第16表-4)

項目 区分	面積(ha)			土壌統 (区)名	減水深(mm/日)		作土の厚さ(cm)		10a当たり 客土量(m <sup>3</sup> )	土壌の性質		備考
	事業名				現況 平均	計画 平均	現況 平均	計画 平均		受益地 (%)	採土地(客土材料) (%)	
	農地整備		計									
輪換田	(8.4)		(8.4)	細粒質普通 灰色低 地土 F3z1T1	( // )	( // )	( // )	( // )	(179)	購入土(植栽用土) ・公共用残土	基準田面高未満 の田及び畑の 段差解消のため	
	8.6		8.6		17.5	21.6	14	15	116			
水稲単作田	(8.6)		(8.6)		( // )	( // )	( // )	( // )	(279)			
	5.5		5.5		17.5	17.5	14	15	254			
畑	(18.0)		(18.0)		( // )	( // )	( // )	( // )	(260)			
	15.9		15.9	17.5	5.3	14	25	460				
計	(35.0)		(35.0)					(201)				
	30.0		30.0					324				

上段(): 変更前  
下段(): 変更後

第6章 附帯工事計画 (変更なし)

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着手 令和 6 年度  
( 9 )  
完了 令和 11 年度

## 第8章 環境との調和への配慮（変更なし）

### 第1節 環境配慮する地域の状況

本地域は、埼玉県さいたま市の東部に位置し、低地部は10a区画に耕地整理された水田地帯であり、台地部は未整備の畑地となっている。地区内は、さいたま市田園環境整備マスタープランにおいて「環境配慮区域」の「生産環境保全ゾーン」に位置付けられている。

#### 1 広域的な環境特性

見沼代用水東縁水路と一級河川綾瀬川を水源とした綾瀬川低地の水田地帯となっている。台地部は、未整備の畑地の中に集落が展開している。

#### 2 地域の状況

文献調査及び地元聞き取りにより抽出された生物は以下の通りである。

オイカワ、コイ、モツゴ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、メダカ

用排水路は、概ねコンクリート製品となっており、被かんがい期には水路内の流水は降雨時のみとなる。

### 第2節 環境配慮目標及び基本的な考え方

本地域は、さいたま市田園環境整備マスタープランで「環境配慮区域」の「生産環境保全ゾーン」に位置付けられており、環境に与える影響の緩和を図るなど環境に配慮した整備を行い効率的な農業生産基盤を維持することとしている。

農業排水路において、多くの種の水生生物が確認されているため、多様性の保全、移動経路を確保し、生態系への配慮の下に農業生産基盤の整備を図ることを基本とする。

### 第3節 環境配慮の整備内容

#### 1 魚、小動物などの避難経路、場所を確保する整備

地区内水路勾配は1/1,000と緩やかであるため、計画勾配のままに生息環境は確保できるものとする。

コンクリート柵渠改修部について、1路線の左右1か所にスローパネルを設置し、小動物などの避難経路を確保する。

また、水生生物の居住域や被かんがい期への移行時期の避難場所を確保するため、常に水流がある平沼排水路の合流地点に深みを設置することを標準とする。

#### 2 環境に配慮した工法

工事に当たっては、落水時に小魚類等の生物を平沼排水路や一級河川綾瀬川へ避難誘導させるように計画する。

法面は土法として現況植生に配慮する。

貴重な植物が確認された場合は移植する。

## 第9章 換地計画の概要

### 第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方（変更なし）

本地区の換地計画は、事業施行地域内の農用地の集団化その他農業構造改善に資するように定めるとともに、換地は、従前の土地と照応するよう定めることを原則とする。

### 第2節 換地区の設定（変更なし）

#### 1 換地区の名称、所在、面積

(第18表-1)

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
全区	埼玉県さいたま市 見沼区膝子、緑区上野田、岩槻区横根及び笹久保新田	138.5

#### 2 換地区を設定する理由

全体を一つの換地区とする。

### 第3節 換地計画樹立の基本方針

#### 1 従前の土地の面積の基準（変更なし）

(第18表-2)

換地区名	地積の基準
全区	換地交付の基準とする従前地の地積は、土地改良事業計画決定の公告の日の登記簿地積とする。 ただし、上記の日から3か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合は、その申出のあった地積とする。

2 用途別予定地積

(単位：ha)(第18表-3)

換地区名	用途 (取得予定者) 前後	非農用地区域以外に換地する土地												
		田	畑	山林・原野	その他	通常事業施工区域に含める土地(令第1条の9)			計	本事業によって生ずる土地改良施設用地			創設農用地	合計
						施設改良	その他	小計		改良区	その他	計		
全区	従前の土地	( ) 112.9	( ) 12.2	( ) 0.2	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) 125.3					( ) 125.3
	換地	( ) 68.6	( ) 25.7	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) 94.3					( ) 94.3

上段()：変更前  
下段：変更後

図測面積

(単位：ha)

換地区名	用途 (取得予定者) 前後	非農用地区域に換地する土地										機能交換に係わる土地				一般 国 公 有 地	総 合 計
		特定用途用地			異 種 目 換 地	創設非農用地					合 計	国	県	市 町 村 他	合 計		
		宅 地	そ の 他	計		農 業 経 営 合 理 化 施 設 用 地	生 活 上 ・ 経 営 上 必 要 な 施 設 用 地	公 共 ・ 公 用 施 設 用 地	宅 地 等	計							
全区	従前の土地	( ) 0.1		( ) 0.1	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) -	( ) 13.1	( ) 13.1	( ) -	( ) 138.0
	換地	( ) 0.1		( ) 0.1	(20.8) 21.7	( ) -	( ) -	(2.5) 1.9	( ) -	(23.3) 23.6	(23.3) 23.6	-	-	(19.9) 20.5	(19.9) 20.5	-	(138.5) 138.4

上段()：変更前  
下段：変更後

図測面積

3 農用地集団化の方針（変更なし）

1) 基本方針

(第18表-4)

区分 換地区名	地帯別・グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当り目標団地数	区画畦畔の取扱い
全区	地目別集団化	換地は、各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に集団化する。 密集した位置が幾つかに分かれている時は、その分散状況を考慮し、出来るだけ集団化を図るものとする。	概ね2団地	標準区画の分割は、原則として長辺に沿って分割するが、単独で耕作する土地の短辺部分が10m以下の分割はしない。

2) 特殊地の取り扱い

(第18表-5)

種類取扱 工区	特殊地の種類	換地の方法
全区	1. 特別不良地	改良できない日陰地等は、原則として従前所有者に交付する。
	2. 宅地接続地	従前の土地がその従前地の所有者の宅地に接続している場合は、原則として換地もその宅地に接続して交付する。
	3. 道路関係	従前の土地が主要幹線道路に面している土地についての換地は、原則として主要幹線道路に接続して交付出来るよう配慮する。

4 非農用地換地の方法

(第18表-6)

区分 換地区	用途	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全区	河川・調節池	計画平面図参照 (一級河川綾瀬川)	233,200  236,759	異種目換地	従前の土地所有者	
				不換地特別減歩見合創設換地	さいたま中央土地改良区	

上段() : 変更前

下段 : 変更後

第4節 土地の評価及び清算の方法（変更なし）

1 評価の方法

標準地比準方式

2 清算の方法

比例地積清算方式

第5節 換地計画樹立の年度計画

上段()：変更前

下段：変更後

(第18表-7)

項目 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備考
全区	(令和 5 ～ 7 年度)	(令和 7 年度)	(令和 7 年度)	
	令和 5 ～ 8 年度	令和 9 年度	令和 9 年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則（変更なし）

土地改良法第89条の2第10項において準用する同法第54条第2項ただし書きにより、区画に係る工事が全域について完了した場合には、換地処分することができるものとする。

## 第10章 事業費の総額及び内訳

総額 (2,457,000千円) 地方事務費 (117,000千円) 含む  
 総額 4,034,100千円 地方事務費 192,100千円 含む

(第19表)

項 目	事 業 量	事 業 費 (千円)	10a当事業費(千円)	備 考
純工事費	(95.2) ha	(1,839,000)	(1,932)	
	94.3 ha	3,276,000	3,474	
区画整理	(95.2) ha	(1,839,000)	(1,932)	
	94.3 ha	3,276,000	3,474	
整地工	(95.0) ha	(273,600)	(287)	
	94.3 ha	432,000	458	
道路工	(19.8) km	(115,400)	(121)	
	19.8 km	184,000	195	
用水路工	(13.4) km	(248,800)	(262)	
	14.1 km	391,100	415	
排水路工	(9.5) km	(504,500)	(530)	
	10.8 km	840,900	892	
暗渠排水工	(69.7) ha	(75,500)	(108)	
	68.6 ha	87,800	128	
客土工	(35.0) ha	(621,200)	(1775)	
	30.0 ha	1,340,200	4,467	
測量試験費	1 式	(204,000)	(214)	
		237,000	251	
用地買収補償費	1 式	(130,000)	(137)	
		142,000	151	
換地費	1 式	(133,000)	(140)	
		133,000	140	
工事雑費	1 式	(34,000)	(36)	
		54,000	57	
計		(2,340,000)	(2,458)	
		3,842,000	4,074	
地方事務費	1 式	(117,000)	(123)	
		192,100	204	
合 計		(2,457,000)	(2,581)	上段() : 変更前
		4,034,100	4,278	下段 : 変更後

## 第11章 効 用

(第20表)

区 分 \ 項 目	年 増 加 見 込 効 果 額 ( 千 円 )	年 増 加 見 込 所 得 額 ( 千 円 )	備 考
作 物 生 産 効 果	(54,036) 63,315	(112,135) 99,020	
営 農 経 費 節 減 効 果	(66,968) 155,236	(66,968) 155,236	
維 持 管 理 費 節 減 効 果	(1,117) △ 1,187	(2,909) △ 1,187	
耕 作 放 棄 防 止 効 果	—	—	
地 積 確 定 効 果	(2,199) 2,668	—	
走 行 経 費 節 減 効 果	—	—	
非 農 用 地 等 創 設 効 果	(19,042) 23,737	—	
国 産 農 産 物 安 定 供 給 効 果	(23,255) 9,558	—	
計	(166,617) 253,327	(182,012) 253,069	上段() : 変更前 下段 : 変更後

<参考>

総便益費（現在価値）：(2,910,932) 千円      上段() : 変更前  
4,951,442 千円      下段 : 変更後

## 第12章 関 連 す る 事 業 (変 更 な し)

該当なし

## 第13章 現 況 ・ 計 画 図 面 (変 更 な し)

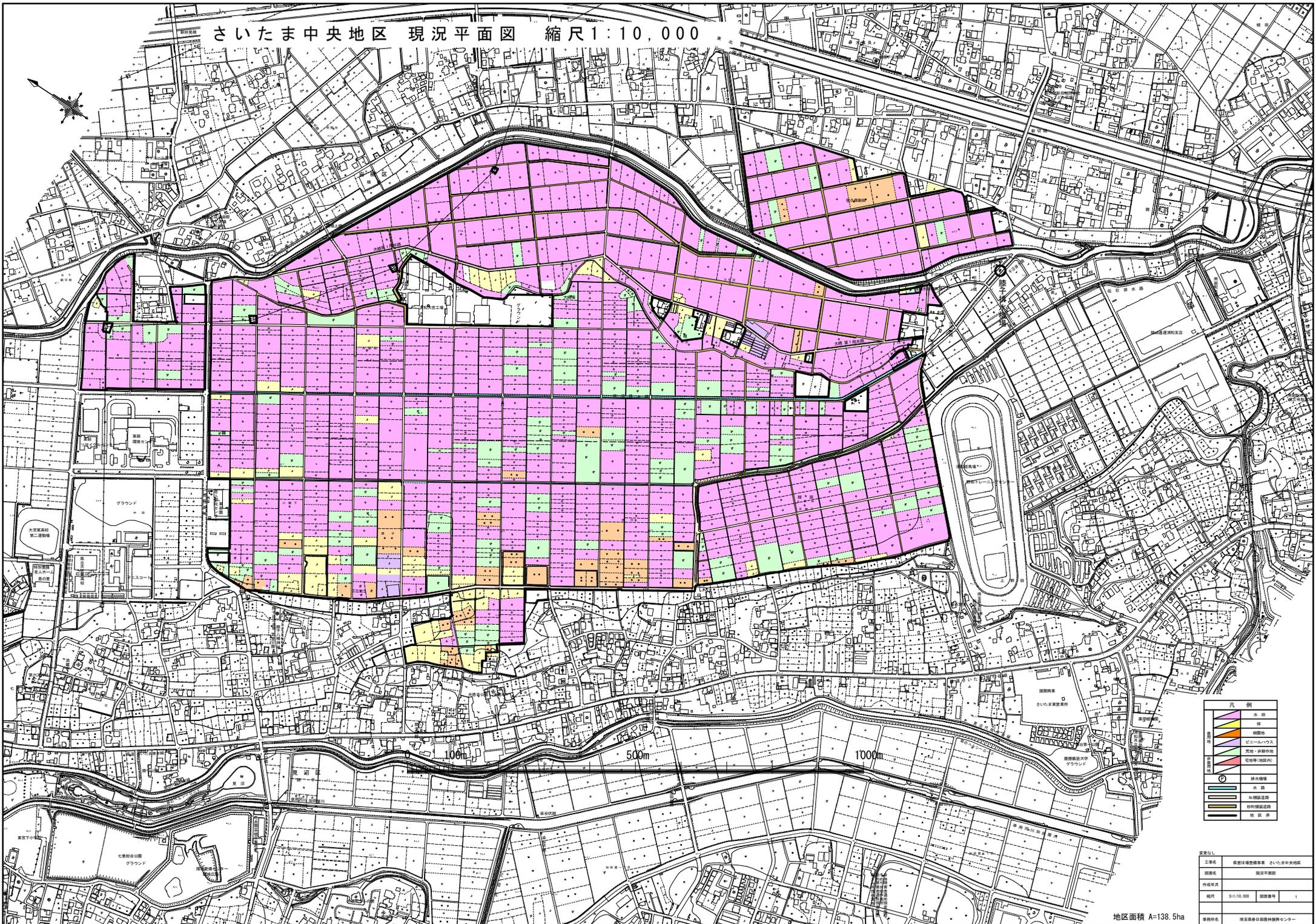
図面目録のとおり。

県営さいたま中央地区土地改良事業計画書(変更)

図 面 目 録

図面番号	図 面 の 名 称	枚数		備考
		変更前	変更後	
1	現 況 平 面 図	1	1	変更なし
2	計 画 平 面 図 及 び 土 地 利 用 計 画 図	1	2	
3	標 準 断 面 図	3	5	3-3 変更なし
計		5	8	

さいたま中央地区 現況平面図 縮尺1:10,000



凡 例	
水田	水田
畑	畑
雑草地	雑草地
ビニールハウス	ビニールハウス
果樹・多目的用地	果樹・多目的用地
宅地等(1区画)	宅地等(1区画)
緑地整備	緑地整備
水 路	水 路
心線区道路	心線区道路
砂防堤道路	砂防堤道路
地 区 界	地 区 界

変更日	
工事名	農地調整事業 さいたま中央地区
調査名	現況平面図
作成年月	
縮尺	1/10,000 図面番号 1
業務所名	埼玉県農林総合研究センター

地区面積 A=138.5ha

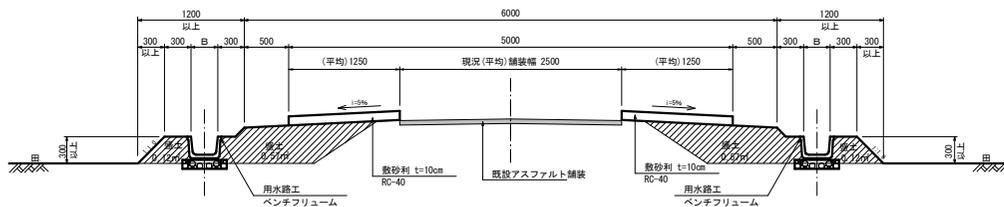




# 標準断面図 - 1

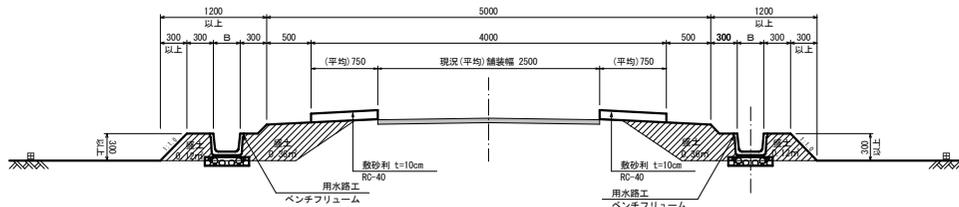
道路工 標準断面図 変更前

支線道路1種 標準断面図 S=1/30



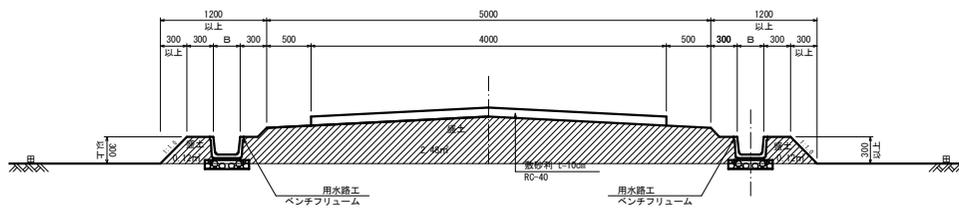
支線道路2種 標準断面図 S=1/30

(現道拡幅路線)



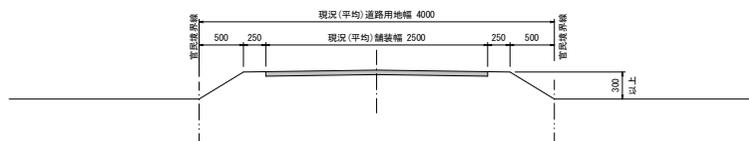
支線道路2種 標準断面図 S=1/30

(新設路線)



支線道路3種 標準断面図 S=1/30

(現況利用)

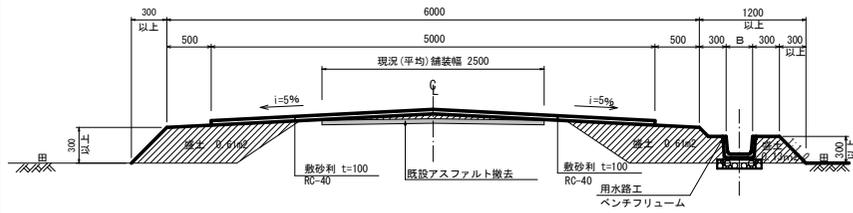


変更前			
工事名	熊倉ほろ整備事業 さいたま中央地区		
図面名	標準断面図 - 1		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	3-1
会社名			
事務所名	埼玉県春日部農林振興センター		

# 標準断面図 - 1

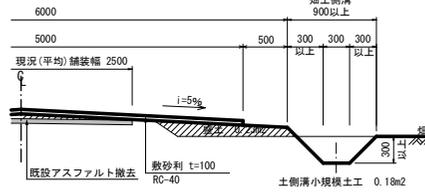
S=1:30 (A3 S=1:60)

田-田(用水路) 通り

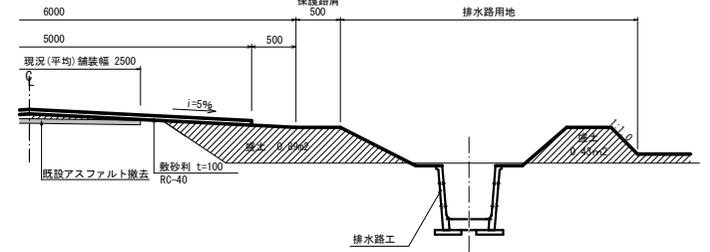


支線道路1種

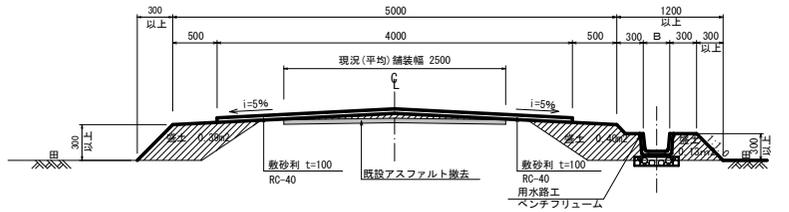
-畑 通り



-排水路 通り

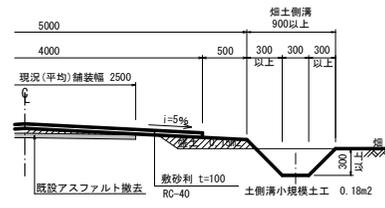


田-田(用水路) 通り

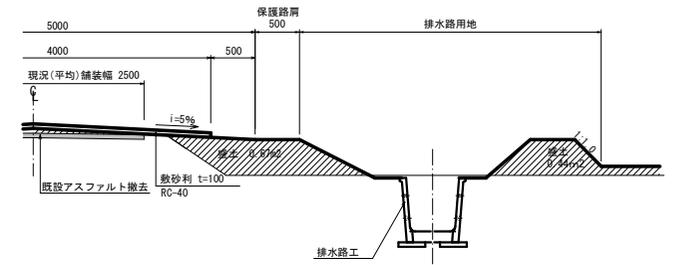


支線道路2種(現道拡幅路線)

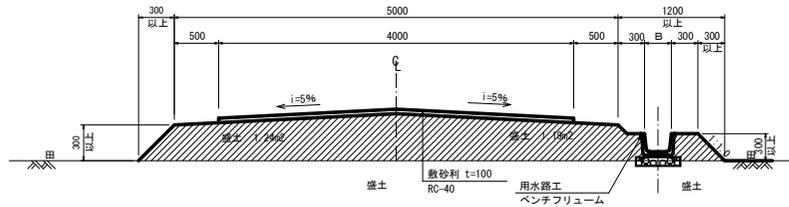
-畑 通り



-排水路 通り

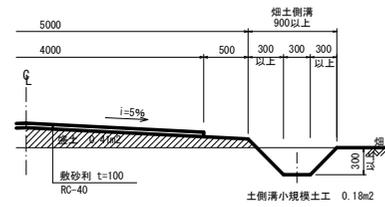


田-田(用水路) 通り

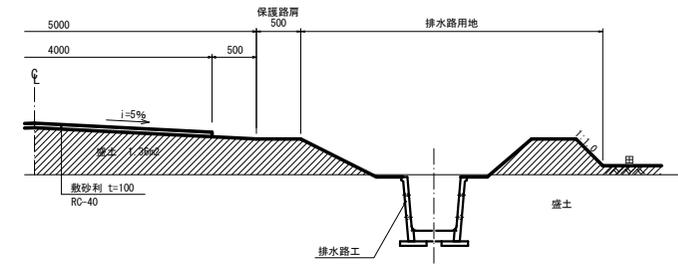


支線道路2種(新設路線)

-畑 通り

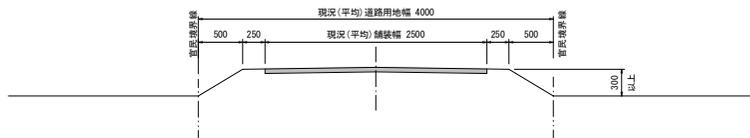


-排水路 通り



支線道路3種 標準断面図

(現況利用)



注意事項

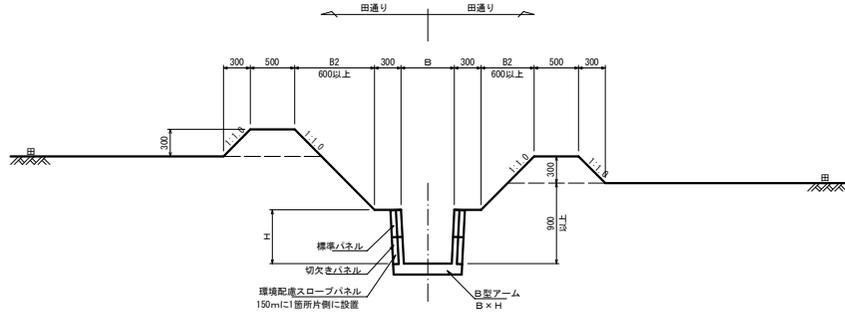
1. 構造寸法は特に示さない限りmmで示す。

盛土

変更後			
工事名	県営ほ場整備事業 さいたま中央地区		
図面名	標準断面図 - 1		
年月日			
尺度	A1=1:30 A3=1:60	図面番号	3-1
会社名			
事業所名	埼玉県春日部農林振興センター		

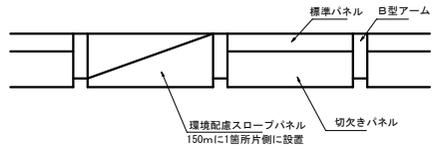
# 標準断面図 - 2

排水路工 標準断面図 S=1/30

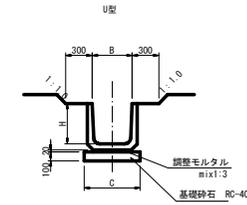
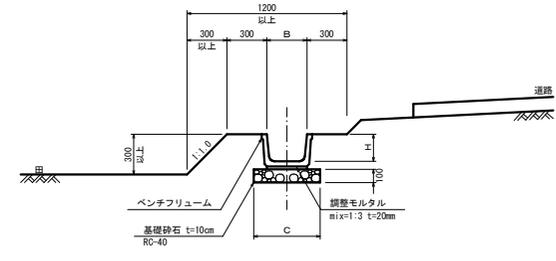


種別	構造	寸法	
		B	H
小排水路 第1種	B型柵梁	500	500
小排水路 第2種	B型柵梁	600	600
小排水路 第3種	B型柵梁	800	600
支線排水路 第1種	B型柵梁	1000	600
支線排水路 第2種	B型柵梁	1200	600
支線排水路 第3種	B型柵梁	1200	900

種別	構造	寸法	
		B	H
排水路55、56-1、57号	B型柵梁	700	600
排水路60号	B型柵梁	1000	600
排水路56-2号	B型柵梁	1200	600
排水路56-3号	B型柵梁	2000	600



用水路工 標準断面図 S=1/20  
開水路(ベンチリュウム)



水路縦断勾配 i=1/1000

種別	構造	寸法		
		B	H	C
伝右川系統	U-450	450	450	630
	U-600	600	600	800
補償水路	U-300	300	300	500
	U-500	500	500	700

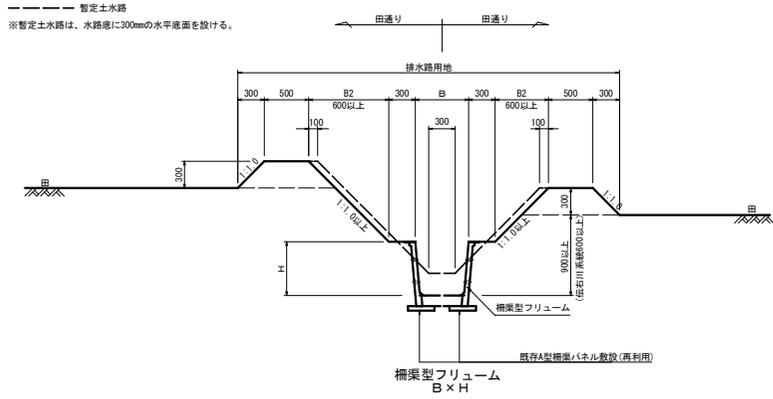
水路縦断勾配 i=1/1000

構造	規格	寸法		
		B	H	C
ベンチリュウム	BF-300	300	200	500
	BF-350	350	235	545
	BF-400	400	260	595
	BF-450	450	295	640
	BF-500	500	320	690
	BF-550	550	355	735
	BF-600	600	380	780
BF-800	800	490	970	

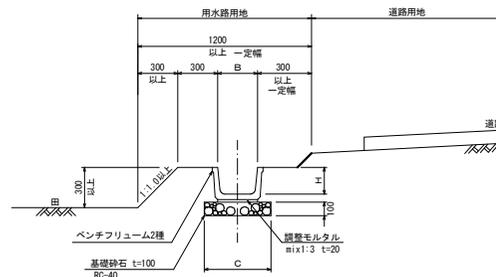
変更前			
工事名	農畜ほ場整備事業 さいたま中央地区		
図面名	標準断面図 - 2		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	3-2
会社名			
事務所名	埼玉県春日部農林振興センター		

# 標準断面図 - 2

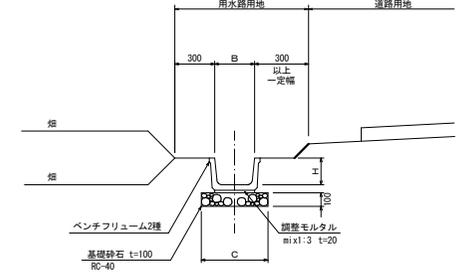
排水路工 標準断面図 S=1/30 (A3 S=1/60)



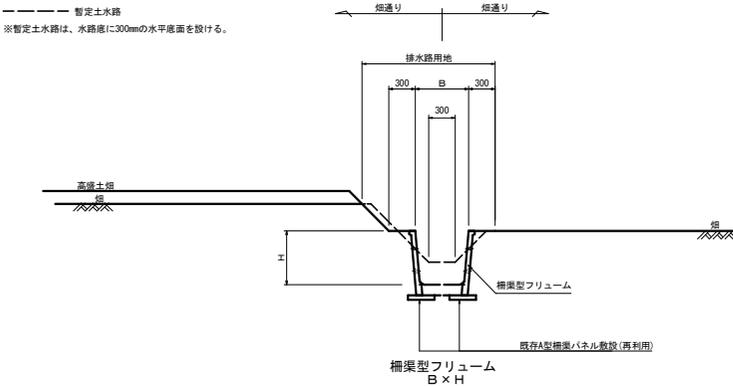
用水路工(田通り部) 標準断面図



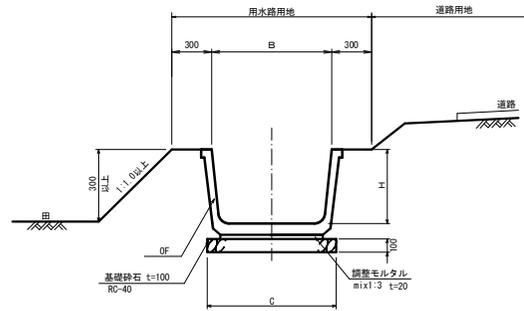
用水路工(畑通り部) 標準断面図



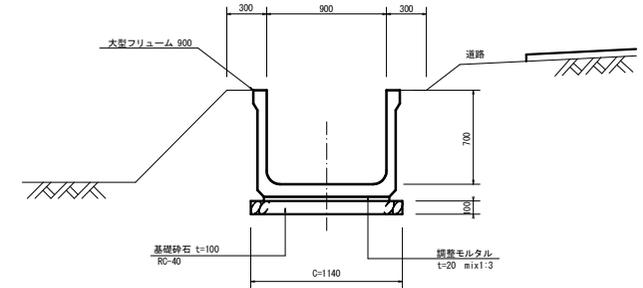
排水路工 標準断面図 S=1/30 (A3 S=1/60)



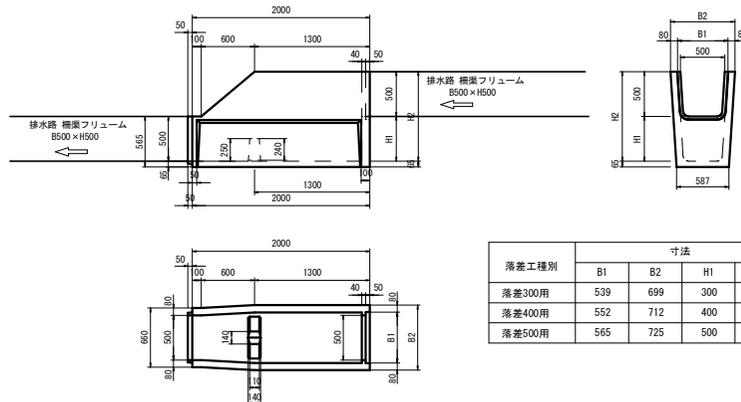
用水路工 (OF) 標準断面図



用水路工 (23号) 標準断面図



排水路落差工 標準図 S=1/30 (A3 S=1/60)



水路縦断勾配 i=1/1000

種別	構造	寸法	
		B	H
小排水路 第1種	柵梁型フリーユーム	500	500
小排水路 第2種	柵梁型フリーユーム	600	600
小排水路 第3種	柵梁型フリーユーム	800	600
支線排水路 第1種	柵梁型フリーユーム	1000	600
支線排水路 第2種	柵梁型フリーユーム	1200	600

開渠寸法 (ベンチフリーユーム)

B	H	C
300	200	500
350	235	550
400	260	600
450	295	650
500	320	700
550	355	750
600	380	800
700	440	900
800	490	1000
900	550	1100

開渠寸法 (大型フリーユーム)

B	H	C
900	700	1440

落差工種別

落差工種別	寸法			
	B1	B2	H1	H2
落差300用	539	699	300	800
落差400用	552	712	400	900
落差500用	565	725	500	1000

## 注意事項

- 構造寸法は特に示さない限りmmで示す。
- 躯体に用いる無筋コンクリートの規格は以下の通りとする。
  - 設計基準強度  $\sigma_{28}$ =18N/mm<sup>2</sup>
  - スラブ厚 8cm
  - 骨材寸法 25mm
- 地盤改良の配合は、現地土による配合試験から決定する。
- 二次製品ボックスカルバートは延長方向を金具連結テンプレートで連結すること。

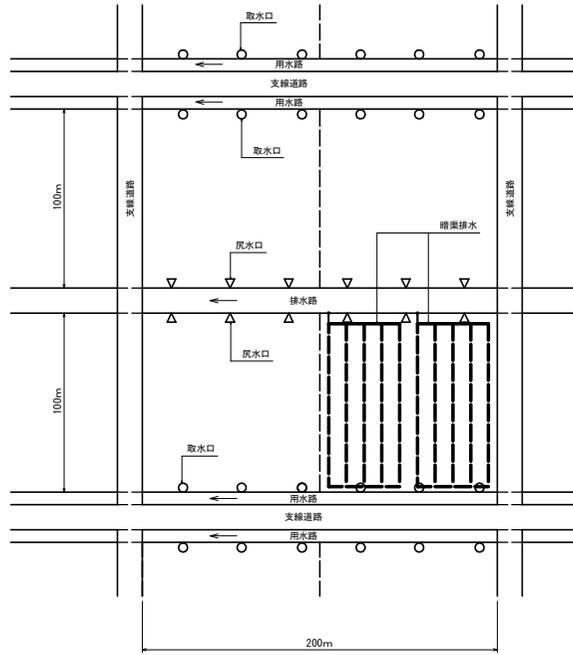
## 変更後

工事名	県営ほ場整備事業 さいたま中央地区		
図面名	標準断面図 - 2		
年月日			
尺度	図示	図面番号	3-2
会社名			
事業所名	埼玉県春日部農林振興センター		

--- 暫定土水路  
 ※暫定土水路は、水路底に300mmの水平底面を設ける。  
 ※暫定土水路は、完成形の水路内法面に対して100mm内側に法面を形成する。  
 (完成工事(2期)にて、切土法面仕上げを行う)

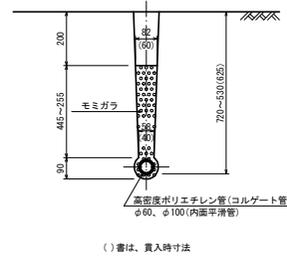
# 標準断面図 - 3

標準区画割図

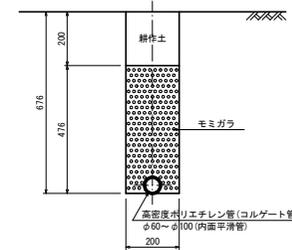


暗渠排水工標準断面図

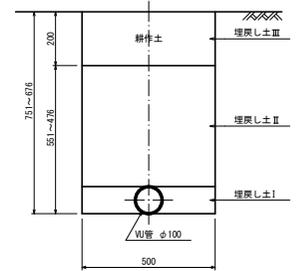
吸水渠断面図 S=1/10  
ドレンレイヤー工法



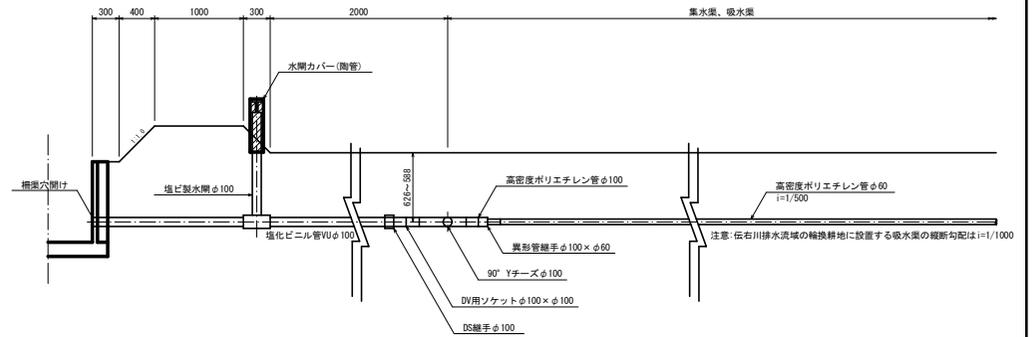
集水渠断面図 S=1/10  
トレンチヤー工法



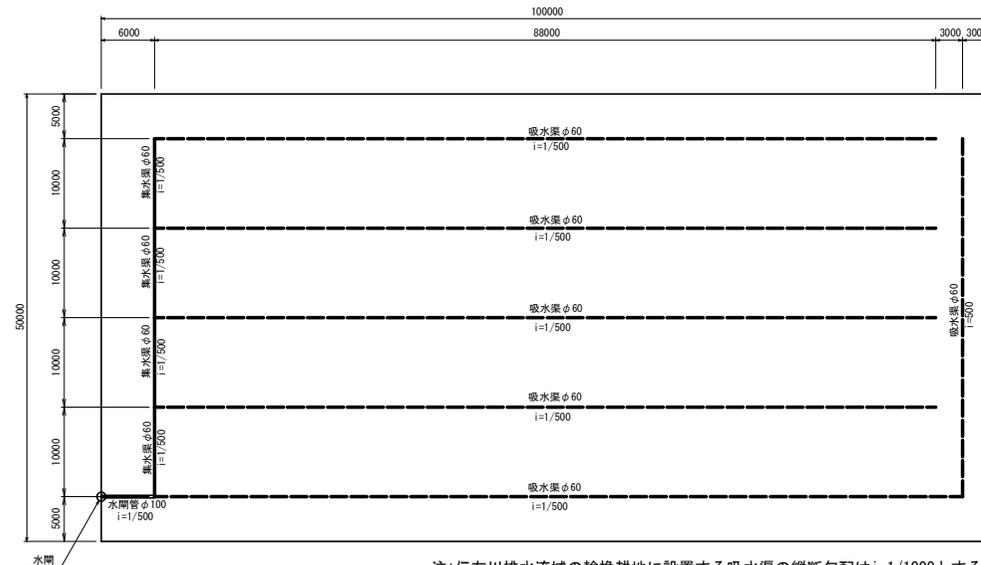
水間管標準断面図 S=1/10



末端処理工標準断面図



吸水渠・集水渠・水間管 標準配置図 S=1/300



注：伝右川排水流域の輪換耕地に設置する吸水渠の縦断勾配はi=1/1000とする。

変更なし

工事名	農産ほ場整備事業 さいたま中央地区		
図面名	標準断面図-3		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	3-3
事務所名	埼玉県春日部農林振興センター		